

スギ種子の早期生産技術の開発

研究課題名：エリートツリー種子の早期生産技術の開発（平成30～令和2年）

従来のスギ種子生産は露地栽培が一般的で、生産量が安定するまでに時間がかかります。そこで、果樹分野の生産技術を応用し、種子の早期生産技術を開発しました。

＜スギ閉鎖型採種園＞



- ・ビニールハウスによって外部からの害虫を防ぎ、母樹同士の確実な交配が可能になります。
- ・果樹分野で確立されている根圏制御栽培法によって種子の早期生産が可能です。
- ・人工交配を約10回/本実施することで発芽率を40%以上にすることができます。

＜閉鎖型採種園におけるスギ種子生産方法＞



①収穫コンテナへスギ母樹を定植



②定植2年目まで夏はドリッパーによる約2L/日・本の点滴灌水



③1月下旬にビニールハウスを閉鎖し2月上旬人工交配を10回以上実施する



④6月に翌年の着花のためにジベレリン処理を実施

・毎年収穫ができますが、定植3年目母樹で約1000個/本の球果をつけさせると翌年の収穫量が極端に減ってしまうことがあります。雌花着花量に注意してください。

・人工交配回数と種子発芽率には関係があります。使用する花粉の質を確かめてから、人工交配回数を決定する必要があります。

【静岡県農林技術研究所（森林・林業研究センター）森林育成科】

TEL：053-583-3121 e-mail：FFPRI@pref.shizuoka.lg.jp